

## 実践事例

### 1年 生活科 なかよしは いま (こうえんの あき)

#### 学 び 育 つ 子 ど も の 姿

- 公園で遊んで楽しかったことや見つけたことを、自分なりの方法でみんなに知らせようとしている姿
- 公園で見つけたものや友達の発表から、秋を感じている姿

#### こ れ ま で の 活 動

秋晴れの日、クラス全員で校庭でおにごっこやかくれんぼをしたら、「かくれるところが、ないよ」と言い出した。「は山こうえんがいいよ」「は山こうえんには、まつぼっくりがおちているんだよ」「いろんなあそぶものがあるよ」子どもたちの目が、とたんに輝き出した。そこで、麓山公園をみんなの遊び場とし、それぞれが、「こんなことしたい」という期待を持って出かけ、思い思いの遊びをたっぷり楽しんできた。

#### 《たのしかったね は山こうえん》



「〇〇くんが、ここでバッタを見つけたんた。ぼくも、つかまえないなあ」

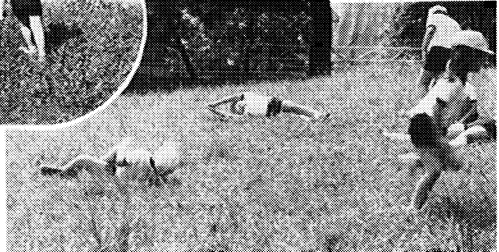
「キャーッ」  
「なんかいやっても、おもしろいよ」  
「草が、チクチクするね」



麓山公園で遊んだことや見つけたものを自由に発表し、みんなで遊んで楽しかった気持ちを高めていく。

「ヒュー  
いい気持ち」

「おもしろかったよね」



#### 《みつけた みつけた こんなことみつけた》



「ぼくの見つけたはっぱ、みんなにおおきいよ」

「わたしは、文にかいて、みんなに知らせよう」



公園で遊んだことや見つけたことを、分かりやすく知らせるために、絵にかいたり、写しどりをしたり、作文にまとめたりなど、それぞれが、思い思いの方法で表現していく。



「はっぱは、かれちゃうから、形をのこしておこう」

フロッタージュで

た	世	か	ふ	て	に	な
	め	で	る	に	だ	わ
		て	ま	と	か	ど
		し	い	く	い	ん
		り	え	い	し	ぐ
		ま	お	た	り	い
		し	は	と	い	を
						も
						み

自分なりの気づきを表現することが新たな活動へと発展していった。

#### こ の 実 践 か ら

公園で自由に遊んでいる中で、子どもたちは様々な秋と触れ合いをしている。

「はっぱが、あきいろになったよ。」「バッタがいたよ」

そんな友達の気づきを共有することで、

「え、そんなものがあったの」「よーし、こんどは、ぼくも見つけるぞ」

と、次への活動意欲がかきたてられていった。

また、遊具での遊びは、その後の冬さがしの活動の際、「すべり台で、おしりが前より冷たくなったよ」という気づきへとつながっていった。

このように、体中で遊びに没入することが、季節の小さな変化や自然の営みを見付けることのできる目を育てる基礎を培うと考える。